

兵庫写真コレクション

1975年から1980年にかけて撮影された約5,000枚の写真に衰退する都市としての小樽が写し出されています。1950年代以降、北海道東岸の港が東京へのより便利な航路を提供し、国のエネルギー需要の主流がかつて小樽から出荷されていた石炭から石油に代わりました。銀行や企業は北海道の首都、札幌に移転しました。このような状況を背景に、札幌出身のプロ写真家、兵庫勝人（1942年-2004年）は市内の写真を何千枚も撮影し、朽ち果てた小舟、色褪せた看板、狭い路地裏、静かな商店街などを記録しました。

この写真コレクションは1980年代に復興運動が始まる前の小樽の貴重な記録です。これらの作品は今日の小樽の改装された倉庫やエレガントな街灯、魅力的な景観とはまったく対照的です。兵庫はコレクションを小樽市総合博物館に遺贈し、厳選された写真が順次展示されています。